

# 01

## 使うことが、暮らしを守る。

みなさん、「奈良の森林」と聞くとどんなイメージが浮かびますか？  
緑豊かな自然、美しい景観、多様な生命を育む場...  
人によって様々ですが、おそらく多くの方が「良いイメージ」を持っているのではないのでしょうか。

だからこそ、そんな森林を伐採することは、環境破壊だと思いませんか？  
でも、それは誤解です。

森林は、適度な伐採をし、使う→植える→育てる→使う、という循環をさせることで、持続的なサイクルを保つことができます。  
健全な森林は、山を保ち、水を保ち、空気を保ち、様々な恵みを私たちにもたらしてくれます。

つまり、奈良の木を伐って使うことは、私たちの暮らし、そして奈良を豊かにし、後世につなげていくために大切なことなのです。



# 03

## 奈良の森は、私たちの暮らしにたくさんの恵みをもたらしています。

緑の森は、美しい景色で目を楽しませてくれるだけでなく、私たちの暮らしに欠かせない大切な役割を担っています。

樹木がしっかりと地中に根を張ることで山崩れを防いでいますし、土壌がスポンジのように雨水を蓄えることで大量の雨が降ってもゆっくりと川に流れ込み、洪水を防いでいます。また、雨水は森林の土壌を通過する過程で浄化され、ミネラル分を含んだきれいでおいしい水となります。さらに、樹木は光合成により空気中から二酸化炭素を吸収し、炭素を蓄えるため、地球温暖化の防止に役立っています。森林は動物や昆虫などの多くの生き物の命を育む場にもなっています。

漁師の方が山で植林活動をするのに象徴されるように、森林によって育まれる生態系や良質な水資源の恩恵は河川などを通じて遠く海にまで及びます。



# 02

## 奈良県の森林は、約6割が人工林。だから、人の手入れが欠かせません。



奈良県の森林は 28 万 4 千ヘクタール、総面積の約 77% を占め、その約 6 割は私たち人間が使うための木を育てている人工林です。

適切なタイミングと方法で、苗木を植え、枝を打ち、間伐をするなどの手入れをすることで、人工林は美しい景観や良質な木材をもたらすだけでなく、わたしたちの暮らしや自然環境を守るたくさんの役割を果たしています。そうして奈良の人と森林は共生してきたのです。

しかし、近年は、山村地域の過疎化や木材価格の低迷等により林業の担い手が減少し、間伐等の必要な手入れが行われない山が増えていることが大きな課題となっています。



# 04

## 日本の暮らしを支えてきた奈良の木。文化を守り伝えていくためにできること。



奈良の中でも、特に吉野林業地域で産出される吉野杉や吉野桧といった「吉野材」は、年輪が密で、節も少なく、全国でも有数の優良木材として知られ、日本の伝統文化にとってなくてはならないものです。

例えば、日本の食文化を支える日本酒や醤油、味噌などの発酵食品の仕込みや保存に使われる樽や桶の材料には、古くから吉野杉が使われてきました。また、食事の際に使う割り箸にも、吉野杉や吉野桧の端材が使われています。

奈良だけでなく日本全国で古くから愛され、人々に使われ続けてきた誇るべき「奈良の木」。奈良の木を使うことは、奈良の森林や私たちの暮らしを守るだけでなく、日本の伝統文化を守ることにもつながります。

奈良の木は、割り箸や食器、雑貨、家具、住宅まで、幅広く活用されています。一人一人が少しずつでも使うことで、森林や暮らし、文化を守ることに貢献してみませんか。